

会議録

会議の名称	第2回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会
開催日時	平成21年10月28日 14時30分から16時30分まで
開催場所	保谷庁舎 4階 第4会議室
出席者	浜委員、山縣委員、伊藤委員、大木委員、清水委員、富岡委員、貫井委員、本橋委員、朝長委員、臼井委員、櫻井委員 事務局 大和田産業振興課長、宮坂課長補佐、稲船主事 関係者（東京都農業振興事務所） 永塚農務課長補佐
議題	(1) 多面的機能にかかわる現状の取りくみについて（資料1） (2) モデルスタディについて（資料1、2） (3) その他
会議資料の名称	次第 資料1 第2回西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会 会議資料 資料2 モデルスタディ検討エリア現況図 資料3 第1回協議会議事要旨（案）
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

会議内容

発言者名：
発言内容

1 開会

会長：委員の出欠の確認。

事務局：梅澤委員が所用で欠席。配布資料の確認。前回の協議会で議事録については、委員の名前は記載しない旨確認と了承をとったが、資料3 第1回協議会議事要旨（案）の1ページの委員自己紹介のみ、委員の氏名が明記してある。異議があれば知らせてほしい。

委員全員：委員全員了承。

事務局：議事要旨の内容の訂正、修正については、11月の2週目までに事務局へ知らせしてほしい。その後、議事要旨確定版は委員へ送付し、市役所両庁舎1階の情報公開コーナーで閲覧できるようにする予定である。

2 議題

(1) 多面的機能にかかわる現状の取りくみについて（資料1）

(2) モデルスタディ検討エリア現況図（資料2）

事務局：資料1 「1.多面的機能発揮に関わる現状の取り組み」について説明。

会長：1ページは、都市農地を保全する為に、都市農地の多面的機能を発揮していく必

要があり、また、西東京市で現在取り組んでいる多面的機能について述べてある。本日の事務局の素案としての事業に対して、モデルスタディの中で挙げられている事柄がどのようにしたら実現可能なメニューになるのか具体的に意見交換していきたいと思う。一旦事務局に資料全ての内容を説明してもらい、後ほどワークショップ形式で委員の皆さんからの意見をポストイットに記述してもらいたい。そしてそれを整理して、事業の方向性の手がかりとしていきたいと思う。

3 モデルスタディについて（資料1、2）

事務局：資料1のP.2以降と資料2について説明。

3ページの東京大学付属農場の多面的機能の取り組みについては、前回の協議会でも東大農場の活用という意見が出ていたこともあり、東大へ事業への協力をお願いに伺った。東大へは東京都のまちづくり事業の概要の説明、東大農場の活用要望、東大農場キャンパス整備事業との連携について説明を行った。今は返事待ちの状態だが、東大からの確認をとりつつ出来るだけ早い時期に方向性を定めていきたいと考えている。本協議会でも議論をしていきたいと思う。

会長：事務局の素案は、大きく分けると東大農場は市の中核施設という考え方で、保谷駅北部、保谷駅南部、田無駅南部の3エリアの中から更に1つの地域を選んだ提案となっている。事務局の提案は、1カ所にしぼって取り組む内容と、3エリア同時で取り組める内容となっており、その辺を踏まえて1カ所を重点的に整備するのか、3エリア同時に整備するのか、もっとエリアを広げるのか等意見の方向性を見出したいと思う。東大農場の展開例や1ページの現状の取り組みを踏まえつつ各自東大農場と地域の展開についてポストイットに記入をお願いしたい。

委員：詳細な展開例は保谷駅北部エリアしかないが、それ以外のエリアは場所のイメージがないと自分で実際に歩いたわけではないので、展開例を考えるのが難しい。

副会長：ここで述べている展開例は、保谷駅北部エリアに限ったことではなく、このような展開の仕方があるということではないか。

委員：しかしながら、エリア毎の特性があるのではないか。

会長：エリアをしぼってしまうとアイデアが出てこないのではないか。

事務局：東大農場は拠点として具体的に名前が挙がっているが、保谷駅北部、保谷駅南部、田無駅南部の3エリアについては、選定条件を踏まえた上での事務局案であるので、エリアをここに限定する必要はなく、イメージの出来る範囲内で意見をもらえればと思う。

委員：ポストイットに記入する展開例は、P.1に記述のある現状の取り組みの内容から抜き出すのか。それ以外のアイデアでもかまわないのか。

会長：それ以外のアイデアもあれば記入してほしい。なるべくポストイット1枚につき、1つのアイデアを記入してもらいたい。思いついたことを自由に書いてほしい。本日これから可能であれば、記入していただいたポストイットを事務局で整理・分類し、ボードに貼り付けて委員の方々から補足説明や意見をもらいたい。

事務局：会長と事務局で、委員からの意見が記載されたポストイットをホワイトボードへ分類し、貼り付ける。東大農場（市全域の拠点）、3地域等の意見の分類について説明。

会長：事務局には、後ほどこの意見をまとめて整理をしてほしい。それを踏まえて、サービスの拠点、散策路、直売所、防災、教育等に活かせることを次のステップとして

考えたい。

副会長：前回の協議会で東大農場をモデルスタディの地域として検討してほしいと意見を述べたが、事務局素案では東大農場とその他3つのエリアという内容になっている。しかし東大農場を中心にした周辺の地域も含めて検討はできないのか。東大農場にだけこだわるのではなく、東大農場も含めたもう少し広いエリアで検討してみたらどうか。まちづくりという考えでは、近くにJAや一般の農地もあるので、もう一工夫して検討してほしい。

会長：東大農場の中だけではなく、東大農場と連携したエリアという考えで行うのはいいのではないかと。

委員：保谷駅北部エリアだけではなく、保谷駅南部エリア、田無駅南部エリアの多面的機能の展開例を提示してほしい。エリアだけの散策ルートだけではなく、西東京市全体を考える散策があってもいいのではないかと。各エリアとして考える機能、全体として考える機能があるのではないかと。そして、東大農場について計画を考えても東大に却下されては無駄になってしまうのではないかと。今年度中に計画はつくるのであれば、短い時間の中で結論が出るのか不安がある。

事務局：東大には遅くとも11月中に返事をいただきたい旨を伝えてあり、東大としても前向きに検討をしてくれと言っていたので期待している。そして万が一却下された場合には、東京都のモデルプラン策定には東大の先生が2人係わっているので、そちらの方から再度お願いをしてみたいと考えている。まちづくりとして東大農場プラス地域という両面で考えているので、東大農場ありきという議論ではない。前回の協議会で東大農場の活用という意見が出たので、モデルスタディの場所として検討を行った。本日、副会長の方から地域を広めてまちづくりという視点で東大農場周辺も含めた方がよいという意見ももらったので、再度展開例を検討していきたいと思う。また、今ご指摘のあったように東大農場が核であるならば、その他の地域とのつながり、例えば散策路だけでつなげていくのかということなども検討をしていきたいと思う。

委員：これは農地の保全が前提の多面的機能の展開例だが、農業者としては散策路を整備しても農地の保全にはならないと思う。何か農家が元気になるように、2世、3世が農業をやっても良いと思えるようなものにしていかなくてはならないと思う。農家が農業をできない現状があるので、農業ができるようなきっかけになる場が必要だと思う。東大農場については技術面等で協力をしてもらいたい。その他に農地を残すということが前提であれば、農家にとって有利な、農家が農地を残したいと思うような視点的アイデアが必要となってくると思う。ちょっと目に付くようなもので、例えば市民が参画するような直売所等、市民が生産者と協力できる様々な方法を考えていけるような方向に進めたら良いと考えている。それからエリアについては3つのエリアに限定するのではなく、市全域で取り組みを行った方がいいのではないかと。

委員：今の意見に比較的近いのだが、農家はものをつくって生産したものを消費者に食べてもらう。新鮮だと喜んで食べてもらえることが一番ありがたいことだと思う。しかし今の農家の現状は、平均年齢も60歳以上になっており、相続税問題等もありなかなか大規模に農業を維持することができなくなっている。昔は家族総出で農作業をして市場へ出荷をするということを行っていたが、現状では農業者はお年寄りが多く、収穫したものを直売所で販売しており、近所の人のみが購入するというのが現状である。そのような現状を後継者たちが見て、はたして今後農家の跡を子どもたちが

継ぐのか。道路も整備され拡幅されるので、農家が収穫したものを持ち込み、販売する道の駅ができればよいのではないか。生産者がつくったものを持ち込めるような市場のような機能を持つ場所を提供すれば、人が集まり、会話が生まれ、コミュニケーション施設としても成り立つし、季節の花を植える等の活動も盛んになってくるのではないか。東大農場の機能は、教育や研究が主流だと思うが、東大の考えの中に販売という考えが受入れられるのか懸念している。販売施設が却下された場合は、東大農場はコミュニケーション施設ということにして、田無駅北側に販売の拠点をつくることを検討してはどうか

事務局：東大が作成した整備計画案に、アグリビジネスが案として盛り込まれているので、販売所に関しては問題ないと思う。

副会長：3年前の東大農場移転計画の際に移転しないことを検討してほしいとお願いをしたことがある。農場を移転しない事が決まった際に田無に集約するという結論を出し、田無の農場をどのように活用するかという考えで4ページの整備案をつくっていると思うので、赤枠で囲われているエリアは地域と共生して事業を行う前提として計画をたてているはずなので、問題はないのではないか。

委員：農家が野菜を供給する為には、販売拠点が必要となる。

副会長：東大農場については、これからの話になるので分からないこともあるが、地域との連携ができる用意があるという話ではある。

委員：直売所は人が集まる場所であり、それはまちづくりにもつながる。常時人がいて、楽しみがある場所をつくりたい。特に若い人たちは、活気があれば参加したくなるのではないか。

委員：道の駅は全国に沢山あるが、全てが成功しているわけではない。近隣にある道の駅の状況を次回協議会で教えてほしい。生産者が続けていく為には多くの世代の消費者に使ってもらって活性化しなくてはいけない。どんどん使える・使ってもらえる機能が重要だと思う。

事務局：道の駅は地方の国道や幹線道路沿いに整備されており、都内では八王子の道の駅は都道沿いにある。次回協議会で参考になる資料を準備したいと思う。

委員：西東京の市民にわかるようなアピールをしないといけない。ピクニック、バーベキュー、農園等人が集まる場所イコール直売所となるのではないか。野菜だけならどこでも買うことが出来るが、ただ買うのではなく人が集まってくるような、呼び寄せる何か楽しいことがあれば人は集まるのではないか。

3 その他

事務局：次回の開催は11月25日（水曜日）14時から予定している。場所は開催通知にてお知らせする。

委員：資料は協議会当日内容を全て把握するのは難しいので、協議会開催の前に配布してほしい。

事務局：出来るだけそのようにしたいと思う。